

Q.1 ヘルパンギーナとは どのような病気ですか。

- コクサッキーウイルスなどにより、38～40度の発熱で発症し、同時にのどが痛む病気で、発熱が1～3日続き、食欲不振、全身のだるさ、頭痛などを起こします。
- 一般的に経過は良好で、後遺症は残らず、2～3日以内に回復します。
- 1～4歳くらいまでの乳幼児がかかりやすい、夏かぜの代表的な病気の一つです。
- ヘルパンギーナは、急性期には、のどからウイルスが排泄されるため、せきをしたときのしぶきにより感染します。
- 急性期～回復期（発症後4週間後ごろまで）には、便からウイルスが排泄されます。

Q.2 ヘルパンギーナにかからないために どうすればよいのですか。

- 特別な予防法はなく、おむつの交換など便を扱ったあとは手洗いをきちんとすることと、洗濯物を日光で乾かすことなどです。

Q.3 ヘルパンギーナにかかったら どうすればよいのですか。

- 特別な治療方法はなく、症状を少し楽にする方法（対症療法）が行われます。

国立感染症研究所感染症情報センターでは、ホームページ上で、ヘルパンギーナについて解説していますので、こちらもご参照ください。

アドレス http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03_08.html